成形できる断熱材

ガイドブックの改訂版できる

EPS

発泡スチロール協会（JEPSA）のEPS建材推進部は、ビーズ法ポリスチレンフォーム（EPS）の断熱材普及を目的に、行政や公的機関との窓口業務、外部団体・組織等の活動への参画、また、JEPSA会員への情報提供や内部の委員会活動の開催を行っている。

EPS断熱材は、建材、パイプカバー、基礎型枠、床下断熱など多様な形状に成形できる大きな特徴を活かし、戸建住宅、集合住宅、ビルなどの建築資材、保温・保冷倉庫など断熱材としての展開に大きな役割を果たしている。

また、2015年3月にJEPSAのホームページ（HP）内に開設しているEPS建材関連に特化した専用HPを大幅に改訂し、更新を終了している。

さらに、2013年1月に改訂した「EPS断熱建材ガイドブック」の再改訂作業に着手し、EPS断熱建材の施工事例に関する情報、最新の省エネ基準の解説、JIS規格改正に関する情報等を充実、更新して2016年2月に発刊した。

EPS断熱建材関係商品は次のとおり。

木造建築物

▽瓦下地材＝異形の瓦を確実に受け止める断熱兼用下地材。

▽在来木造住宅用EPS成形品充填断熱材（壁・床用）＝間柱やネダの間隔にフィットする充填断熱材。

▽木造住宅外張り断熱材＝波打ち現象を緩和し通気動線が簡単に施工できる。

▽金属屋根下地材＝スレート屋根の上から葺き替える工法で、既存住宅の断熱性能もアップし、雨音も解消する。

▽通気層付き棟包み＝換気機能を備えた軽量乾式棟工法。

－なEPS成形断熱材がある。

RC造建築物

▽伸縮目地機能付屋根断熱材＝屋根外断熱目地浅くし、基礎工事のコスト低減を可能にする合理化工法専用製品。

▽外断熱工法＝結露防止や防カビ、躯体保護等国土交通省認定の工法。

▽型枠兼用断熱材＝合板に替わる軽量で施工性に優れた型枠材で、強化シートや釘打ち可能な補強材を組み込んだもの、耐久性を高める外断熱工法の和・洋瓦下地材。

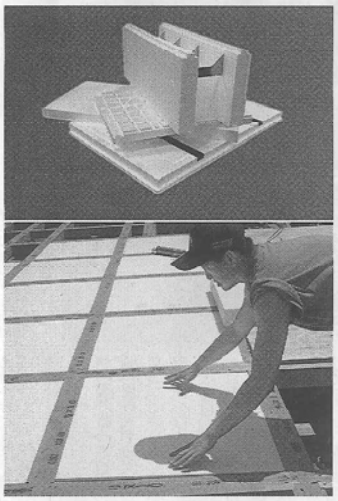
▽瓦下地材＝屋根の軽量化と断熱性・防水性・スラブ、蓄熱槽、スリーブ用に特化した工法がある。

▽現場打ち用ボイドスラブ型枠材＝中空スラブ構法用ボイド材。

▽断熱材組み込み耐火壁パネル＝耐火性や耐衝撃性、遮音性にも優れた、溶接金網一体型パネル。

▽スカート断熱材＝凍結深度を軽減して基礎を断熱工事が同時にできる。

▽基礎断熱専用型枠兼用断熱材＝ブロック型、パネル型があり、基礎と



上は成形した断熱材、下は床面への施工

EPSは

長期断熱性に優れ、耐久性のある断熱材です。

住宅の断熱材に必要なのは、初期性能だけでなく、長期的に変わらない断熱性能です。EPSは南極観測隊昭和基地で40年間の風雪に耐えた実績を持っており、物性的にも経年劣化が少なく、長期に亘って断熱性能を維持している証明となっております。更に地球環境に優しいノンフロン製品でグリーン購入適合素材に認定されています。発泡スチロール協会は、EPS断熱材の品質向上と普及促進の為に、会員会社のJIS認定取得の支援をしています。

EPS

こちらがEPS建材の品質を表すマークです。EPS建材推進部の厳しい品質管理基準に基づいた製品にのみシール・刻印・スタンプ等で表示されています。

RC造の湿式外断熱システム
結露やカビが発生しがたく、省エネルギーと快適な住環境作りに役立つ工法です。

木造住宅用屋根断熱材
屋根部分は、たる木の間に断熱材を挟み付ける構成が一般的です。

EPS断熱建材ガイドブック

EPS建材の特徴を網羅したガイドブックを製作し、特に施工例の写真を充実しました。記載内容は以下の通りです。

記載内容

1.EPS建材の用途と工法……暮らしの様々なシーンで使われています
2.EPS建材の製造工程と特性……多様な形にできます
3.環境対応と省エネルギー基準…環境にやさしい素材です
4.基本的技術データ…長期にわたり安定した物性を持っています
5.品質管理基準……品質向上に取り組んでいます

●お問い合わせ・資料請求は

発泡スチロール協会
EPS建材推進部

〒101－0025 東京都千代田区神田佐久間町2－20 翔和秋葉原ビル6F
TEL.03－3861－9046
FAX.03－3861－0096
http://www.jepsa.jp/jepsa_eps/